

インクルーシブの窓

令和8年3月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



これからも、共生社会の形成に向けた歩みを続けていきましょう！



富山県では、令和5年から毎年11月に、インクルーシブ教育推進フォーラムを開催してきました。

開催年	テーマ	講師	内容
R5	障害のある子供と障害のない子供が共に学び、笑顔で過ごす学校へ — 共生社会を形成する一人として —	植草学園大学副学長 野澤 和弘 氏	講演、鼎談 意見交換
R6	共に学び、共に育つ学級、学校、地域をめざして自分ができること — 共生社会を形成する一人として —	日本理化学工業株式会社 代表取締役社長 大山 隆久 氏	講演 意見交換、全体交流
R7	すべての子供が共に学び、共に育つ学校、地域へ — 共生社会の実現のために私たちができること —	元ボッチャ日本代表 藤井 友里子 氏	講演、ボッチャ体験 意見交換、全体交流

フォーラムには、教育、福祉、医療、企業、学生等いろいろな立場の方々が参加され、インクルーシブ教育や共生社会の形成に向けた取組への関心の高さを感じました。寄せられたたくさんの感想の中から紹介します。参加された方々が、共生社会の形成に向けて前向きな気持ちをもつことができたのではないのでしょうか？

社会の一人一人が意識を変えていかなくてはならないのだと思った。

障害のある人が社会のど真ん中で人生を楽しめるかどうかは、支援者側、周囲の理解の問題であるという言葉が印象に残った。

人間誰でも得手不得手があり、得意な部分を最大限に伸ばしていくことが学校教育にできることであると改めて気付くことができた。

一人一人の興味や特性に合った「これぞ！」と思えるものとの出会いが人生の柱となったり、充実した時間になったり、という話に触れ、今担当している子供たちにそのようなものを見つける手助けをしたいと感じた。

編集後記に代えて

忘れられない言葉があります。それは、令和6年度のフォーラムで講演していただいた大山社長が大事にされている「人間の究極の幸せとは、人に愛されること、人からほめられること、人の役に立つこと、人から必要とされること」です。

学びの場の見直しや整備等の相談で学校にお伺いし、たくさんの元気いっぱいな子供たち、インクルーシブな学校づくりを目指す教職員の方々に出会いました。

これからも、人とのつながりを大切にしながら学校や地域社会の一員として、ウェルビーイングに満ちた共生社会を目指していきましょう。(H記)

※ 「インクルーシブ教育推進フォーラム」の記録と「インクルーシブ教育だより」は、右の二次元コードから、県のホームページで引き続きご覧になれます。

